

2024 年度(前期)数理学習センター活動報告書

1. MSLC の基本理念

- (1)MSLC は、優しさ・笑顔・努力を大事にする学びの空間です。
- (2)MSLC は、学生の数理能力の向上と自主学習の促進を目的とした学習支援機関です。
- (3)MSLC ピア・チューターは、寄り添う学習支援を心がけ、向上心を持ち、自己実現を目指します。

2. MSLC の目標

- (1) 数理系科目の学習支援及び数学苦手克服支援により学生の数理能力の向上を図る。
- (2) MSLC 設置 15 周年、MSLC の活動を振り返る(マニュアル等の整備、これまでの活動をまとめる。)
- (3) 高大接続 入学前教育から初年次教育の検証(高大接続勉強会・入学前特別講座・初年次教育)
- (4) ピア・ラーニングの成果をまとめる。
 - ①センター利用者を対象とした支援効果を検証する。
 - ②学生ピア活動の支援を継続する。
- (5) 名桜大学 3 学習センターの連携
 - ①各センター間の学生ピア活動の交流の促進
 - ②名桜大学のリメディアル教育プログラムを策定する。

3. MSLC チューターの重点努力目標

- (1)チュータリングスキルの向上
- (2)チューターの積極性と責任
- (3)健康情報学科との連携

4. 数理学習センター構成員

- ・センター長：1 人 副センター長：1 人 センター職員：1 人
- ・学生チューター 前期：19 人

表 1 2024 年度(前期) 年次別・ランク別チューター数 (8/6 現在)

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	合計
チューター	1	5			6
レギュラーチューター		4	2		6
アドバンスチューター			4	1	5
マスターチューター			1	1	2
合 計	1	9	7	2	19

(※ 2 年次チューター 1 名は、7 月から休学)

5. MSLC チューターの活動

(1) 運営班

表 2 運営業務の内容及び担当者

担 当	業務内容	担当者
リーダー	①全体の統括 ②シフト表作成(学期期間、長期休暇始め) ③月別作業報告書 ④リーダーズ会議への出席 ⑤チューター	具志堅

副リーダー	トレーニングプログラムの作成（センター長と連携して案作りを行いMTで決定する）⑥チューター育成のフィードバック、成果と課題のまとめを行いプロジェクト発表会で報告する。 ⑦新規チューター募集業務	外間涼花
広 報	広報・メディア：①月刊 MSLC 作成 ②ポスター・広告作成 ③活動記録（写真・ビデオ）④名桜広報原稿作成 ⑤ホームページ・SNS 管理	森田（リーダー） 赤嶺、新里、鷺津、 繁永、新城、佐藤
データ管理	データ管理：利用者統計：利用者延べ人数、実人数、学科別学年別利用者数、曜日・時限別利用者数 ①書籍管理（書籍確認・書籍移動・書籍登録） ②備品・消耗品の管理、発注 ③提出物管理 ④マニュアル編集 ⑤フォルダーの整理	佐事（リーダー） 塩谷、 谷本、桃原、田浦、 外間袴大
新規チューター育成	MSLC における学習支援のノウハウを継続チューターより学ぶ TR 力向上や連携科目の理解度向上を目指して TR の練習	山内（リーダー） 山田、清水、川鍋

（2）連携科目班

表3 連携科目の受講者数・担当教員・担当チューター

連携科目	受講者	担 当 教 員	担当チューター
自然科学特別講義(統計学基礎)	58	高安美智子	赤嶺（リーダー）、新里、森田
数 学	18	高安美智子	外間（リーダー）、川鍋、鷺津
統 計 学	103	仲程基経	山内（リーダー）、清水、佐事
情報処理論	63	天 願 健	山田（リーダー）、具志堅、谷本
情報科学と社会	159	仲程基経	山田（リーダー）、具志堅、谷本
臨床医学総論及び医学用語	28	大城真理子	塩谷（リーダー）、桃原
健康情報数学1	84	太田佐栄子	鷺津（リーダー）、新里、谷本

6. 2024年（前期）MSLC 利用状況

（1）前期の月別利用状況

表4 2024年度（前期）月別利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	小計
実人数	87	142	133	160	22	223
延べ数	251	395	397	488	27	1558
平均回数	2.9	2.8	3.0	3.1	1.2	7.0
授業日数	16	18	20	23	3	80
1日平均利用者数	15.7	21.9	19.9	21.2	9.0	19.5

[考察]

5月以降は、継続した利用者が多く、7月は期末試験前で、期末試験対策講座等があったため、実人数、延べ数ともに最も多くなっている。前期利用者の平均回数は7回となっており、連携科目の受講者は計画的によく利用している。

(2) 月別利用者の過年度比較

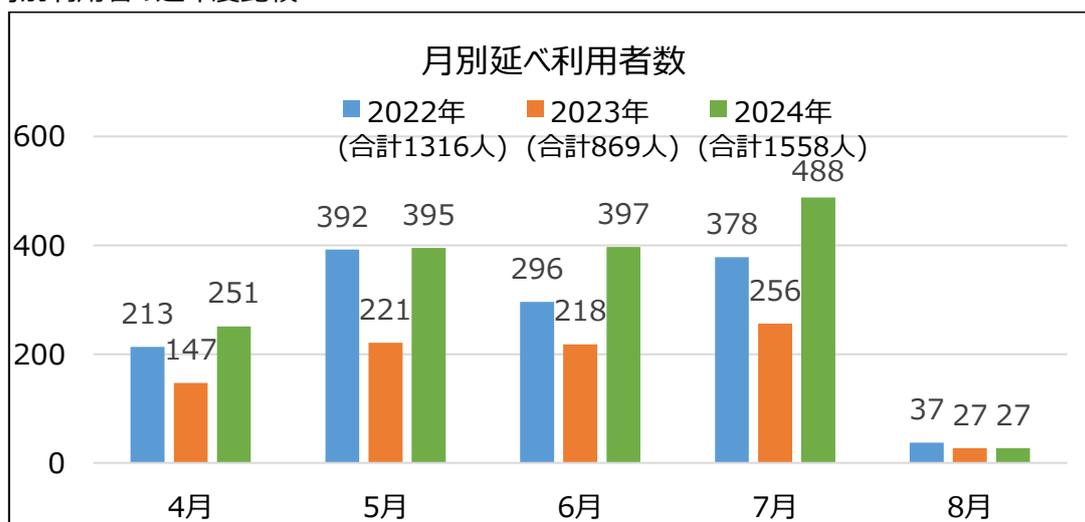


図1 月別利用者延べ人数 3年間比較

[考察] 2024年度7月の利用者が増えたのは、データ数理・サイエンスの課題対策講座、連携科目受講者以外のSPI対策講座、数学検定模擬試験対策講座などへの参加があったことが原因として挙げられる。

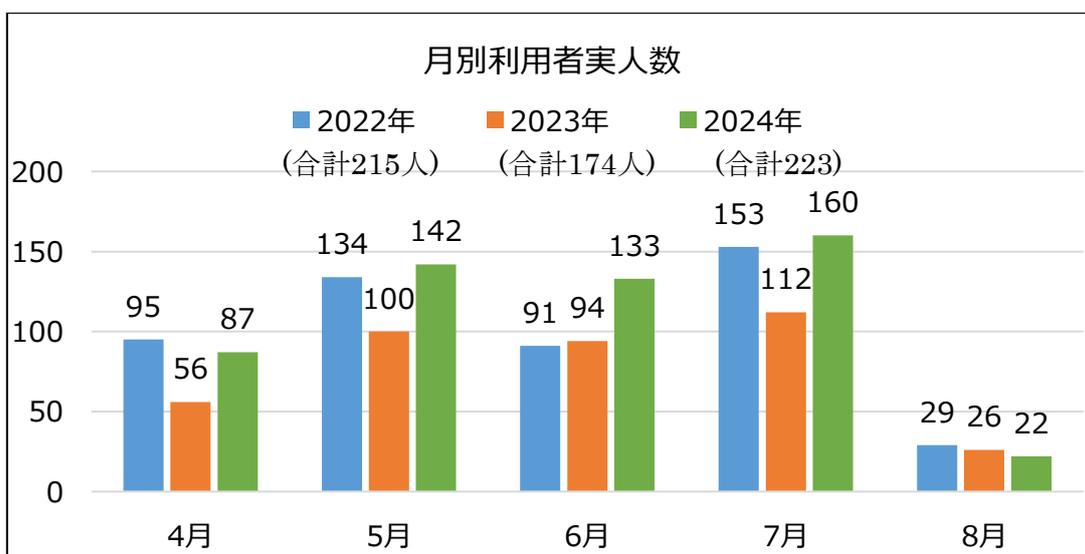


図2 月別利用者実人数 3年間比較

[考察] 昨年度は連携科目の受講者数が少なくて利用者が落ち込んだが、今年度は統計学基礎の利用者が増えたため、利用者増に繋がっている。5月後半から健康情報学科の利用があり、実人数も増えている。

(3) 学科・学年別利用状況

表3 2024年度 (前期) 学科・学年別利用者延べ数

学部	学科	1年	2年	3年	4年	その他	合計	
国際学部	国際文化	583	90				673	
	国際観光産業	171	251				422	
人間健康学部	スポーツ健康	31	66	1	0	0	98	
	看護	196	0	0	0	0	196	
	健康情報	110	10	0	0	0	120	
国際学群	国際学類				41	3	5	49
	合計	1091	417	42	3	5	1558	

表4 2024年度（前期）学科・学年別利用者実人数

学部	学科	1年	2年	3年	4年	その他	合計
国際学部	国際文化	37	8				45
	国際観光産業	16	18				34
人間健康学部	スポーツ健康	5	6	1			12
	看護	64					64
	健康情報	41	6				47
国際学群	国際学類			15	3	3	21
	合計	163	38	16	3	3	223

(4) 目的別利用状況

表5 月別・目的別利用状況

内訳	課題 TR 等	講座	数検対策 模擬試験	SPI・公務員 試験対策	その他 (再試験等)	合計
4月	221	25		5		251
5月	327	58	4	3	3	395
6月	336	47	2	2	10	397
7月	377	84	3	8	16	488
8月	18	8			1	27
合計	1279	222	9	18	30	1558

(5) 連携授業科目別利用状況

表6 連携授業科目別利用状況

	統計学基礎	数学	統計学	情報処理論	健康情報	計
受講者数	58	18	103	63	84	326
実人数	58	18	69	18	33	195
延べ人数	921	267	204	27	96	1514
利用率(%)	100	100	67	28.6	39.3	59.8
平均利用回数	15.9	14.8	3.0	1.5	2.9	7.8

表7 連携科目の課題のオンライン提出

	診療情報	情報処理論	情報科学と社会		統計学	
受講者数	28	63	156	156	16	87
回数	全13回	全9回	前半1回	後半1回	22回	23回
提出延べ数	356	435	135	48	126	1865
提出率	97.8	78.0	86.5	30.8	35.8	93.2

表8 連携科目以外の利用

科目 資格等	数理・データサイ エンス	SPI 対策 公務員試験対策	自習 数検対策等	公務員 試験対策	スポーツバイオメ カニクス
利用人数	16	12	12	1	1

(6) 2024 年度前期チューティング時間

表9 チューターのチューティング時間

4 年次		3 年次		2 年次		1 年次	
山田	39:15:58	赤嶺	23:33:09	佐事	33:10:07	田浦	47:48:19
清水	49:35:45	外間 (涼)	29:42:29	新里	51:08:20	繁永	33:25:31
		塩谷	38:20:53	森田	31:20:36	新城	35:15:44
		具志堅	33:16:03	谷本	24:10:07	外間 (袴)	42:09:27
		山内	39:12:54	鷺津	35:37:43		
		川鍋	49:37:49	佐藤	53:45:37		
		桃原	31:00:08				

(7) 講座

科目名	実施日	講座名	参加者数
統計学基礎	4 月 24 日	統計学基礎 Excel 講座	13
	4 月 25 日	統計学基礎第一回基礎力テスト対策講座	12
	5 月 8 日	第 1 回基礎力テスト対策講座	9
	5 月 23 日	第 2 回基礎力テスト 対策講座	8
	5 月 24 日	SPI 中間試験対策講座	2
	5 月 24 日	第 1 回基礎力テスト 対策講座	0
	5 月 29 日	第 2 回基礎力テスト 対策講座	9
	6 月 12 日	統計学基礎中間試験対策講座	9
	6 月 20 日	第 3 回基礎力テスト対策講座	5
	6 月 26 日	第 3 回基礎力テスト対策講座	8
	6 月 6 日	統計学基礎中間試験対策講座	7
	7 月 4 日	第 4 回基礎力テスト 対策講座	4
	7 月 10 日	第 4 回基礎力テスト 対策講座	9
	7 月 26 日	期末試験対策講座	2
7 月 31 日	期末試験対策講座	13	
数学	5 月 22 日	SPI 中間試験対策講座	0
	6 月 7 日	数学中間試験対策講座	3
	7 月 5 日	SPI 期末試験対策講座	3
	7 月 26 日	期末試験対策講座	3
統計学	5 月 21 日	統計学中間試験対策講座	19
	5 月 24 日	統計学中間試験対策講座	11
	7 月 2 日	統計学単元講座	0
	7 月 5 日	統計学単元講座	1
	7 月 23 日	統計学期末試験対策講座	20
	7 月 26 日	統計学期末試験対策講座	14
情報処理論	6 月 12 日	情報処理論 中間対策講座	9
	7 月 31 日	期末試験対策講座	5
	8 月 1 日	期末試験対策講座	8
数理・データ サイエンス・AI	6 月 26 日	分析課題に関する講座	5
	7 月 3 日	分析課題に関する講座	10

(8) 2024年(前期)チュータートレーニングメニュー

5. チュータートレーニング					
日付	プレゼンテーション内容候補		担当者	ロールプレイ	担当者
4/11	第1回	リフェラルスキル+チューターの守秘義務	山内	指数・対数	鷲津
4/18	第2回	チュータリングにおける表現や言い換え	山田	行列(数学)	涼花
4/25	第3回	チューターに期待されることと自覚すべきこと	清水	通過算	新里
5/9	第4回	チュータリングにおける傾聴力	佐藤+桃原	集合	新城
5/16	第5回	チュータリング成功のカギは	繁永+佐事	共分散と相関	森田
5/23	第6回	創造的思考力・批判的思考力・省察的思考力	谷本	単利と複利	桃原
5/30	第7回	タイムマネジメントと学習方法	袴大+鷲津	ベイズの定理	赤嶺
6/6	第8回	学習やMSLCにおいて主体性を高めるには	田浦+新里	濃度算・標準	繁永
6/13	第9回	スタディバディ・スタディグループの方法と注意点	塩谷	予言的中区	川鍋
6/20	第10回	グループディスカッション(プロジェクト発表会にむ)	涼花	t分布	具志堅
6/27	第11回	チュータリングの際に直面する対応困難な学生の	新城+森田	区間推定	佐事
7/4	第12回	ロールモデルとは	川鍋	仮説検定	山内
7/11	第13回	プロジェクト発表会 リハーサル①			
7/18	第14回	プロジェクト発表会 リハーサル②			
7/25	第15回	プロジェクト発表会 本番			
8/1	第16回	最終ミーティング、引継ぎ(新リーダー・副リーダー決定)			

(9) 数学検定及び数学模擬試験の実施状況

実施日	項目	受験者	合格者	
3/26	第1回模擬	2級20名	7	合格者1名はチューター以外の健康情報学科1年
6/10	第2回模擬	2級2名 準1級3名	0	受験者はチューター2名、 チューター以外の健康情報学科1年3名
6/22	第425回 数学検定	2級4名 準1級1名	2	2級2次2名合格
7/19	第3回模擬	2級1名 準1級3名	1	合格者1名は2級1次のみ チューター以外の健康情報学科1年2名が準1級受験
	合計	34名	10	10名はチューター

※ 前期は、検定及び模擬試験の受験・合格者がともに少なかった。

後期は、計画的に数学検定対策講座を開講し、合格率向上を目指す。

【連携授業の報告】

2024年（前期）自然科学特別講義（統計学基礎）

1. 学年・学科別履修者・単位修得者数

	国際文化学科	国際観光産業学科	スポーツ健康学科	国際学群	合計
1年次	28	7	3	—	38
2年次	7	10	2	—	19
3年次	—	—	—	2	2
履修者合計	35	17	5	2	59
単位修得者	34	17	5	2	58

2. 出席率及び単位取得率

出席率	単位取得率	備考欄
91.3%	98.3% (58/59×100)	国際文化2年次1人が2回目以降欠席（中途退学）

（※退学者1名は出席率にはカウントなし。）

3. 履修者のMSLC利用状況（退学者1名を除く）

科目名	述べ利用者数(人)	実人数(人)	利用率(%)	1人当たりの利用回数(回)
統計学基礎	921	58	100	15.9

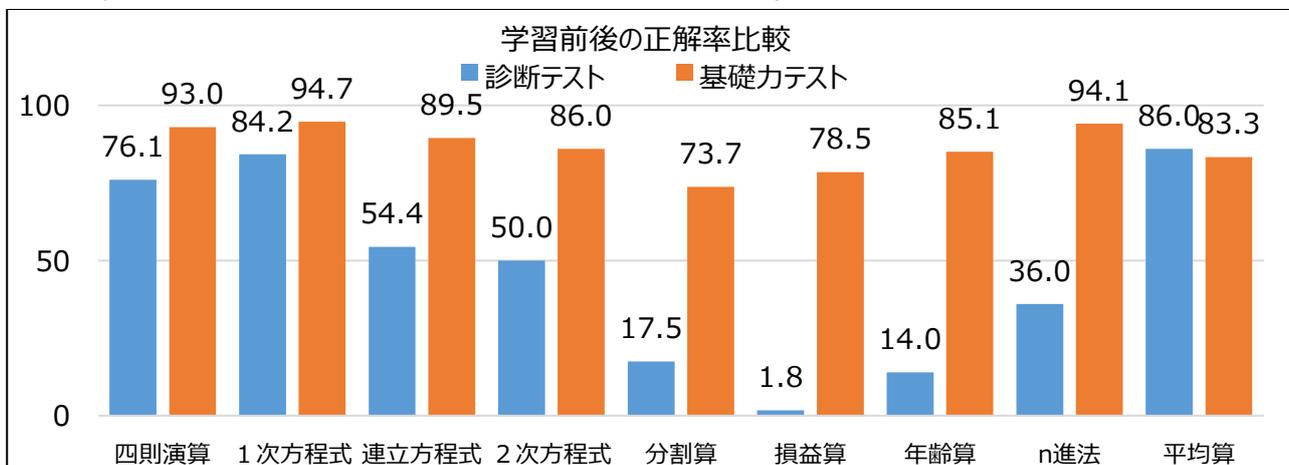
【考察】MSLC利用率100%、15週でチューティングを受けた受講生は平均15.6回と多かった。

基礎力テストの結果により希望者は再テストを受けて努力を続けた。

4. MSLC利用回数により3つの層に分けて比較

	MSLC 利用回数	人数	課題提出 回数	基礎力 テスト平均点	定期試験 の平均点	総合得点
下位層	1～12	17	26.6	69.9	72.3	74.9
中位層	13～19	21	33.8	77.2	78.7	79.0
上位層	20～28	20	34.2	79.5	79.4	82.9

5. 授業外学習の効果測定（再テストの結果は反映されていない。）



【報告】 2024 年度前期 連携授業報告 (担当チューターの報告書より抜粋)

■ 自然科学特別講義 (統計学基礎) 担当チューター: 赤嶺妃美紀 (リーダー)・森田春香・新城碧唯

I 目的

自然科学特別講義「統計学基礎」は、数学基礎力向上に向けて基礎から学び直しするという条件付きの講義である。統計学基礎受講者の数学基礎力向上に向けて、以下の内容で学習支援を行うことを目的とした。

II 連携方法

- ・統計学基礎の講義内で授業内容・課題の冊子を配布する。課題は MSLC チューターが解答やチュータリングを行う、または Classroom に提出しそれをチューターが採点・返却する。
- ・名簿に課題点検のチェックを行い、課題提出状況を担当教員に報告する。

III 取り組み内容

1. 授業外学習

授業外学習として、数学検定 4 級から 3 級レベルの計算技能問題や SPI チャレンジ問題として 7 単元の課題を作成しチュータリングを行った。

2. 授業の予習、復習課題の点検及びチュータリング

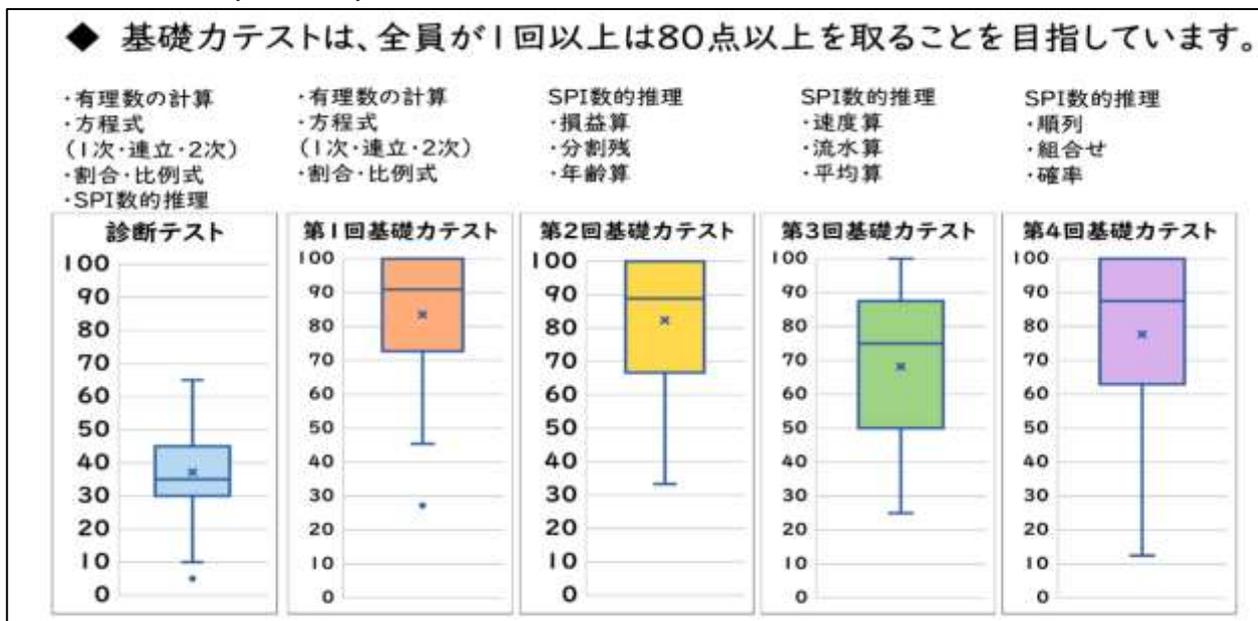
授業の課題内容は、統計検定 3 級と 2 級の基礎から区間推定までの範囲で学習支援を行った。また、発展課題としてグラフの作成、関数の使い方、簡易な分析等の Excel 活用の支援も行った。

3. 中間・期末試験対策問題の作成

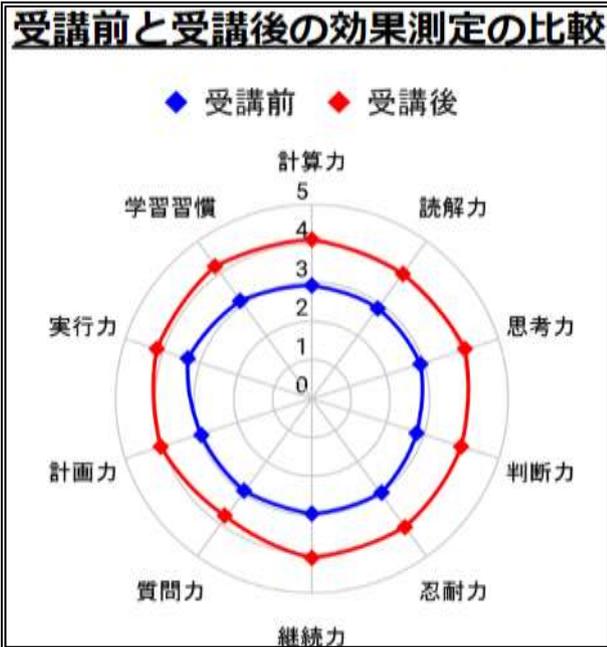
中間・期末試験の対策問題を作成し配布した。(学修支援とテストの結果)

講座名	参加人数	基礎力テスト・中間・期末試験の平均点			
		講座参加者	対策プリントの T R を受けた	対策プリントをもらった	その他
第 1 回基礎力テスト対策	22	87.5	87.6	87.0	78.5
第 2 回基礎力テスト対策	17	91	100	90	75
中間試験対策	16	76.9	73.0	88.6	71.0
第 3 回基礎力テスト対策	14	72.6	79.9	65.8	66.2
第 4 回基礎力テスト対策	13	86.7	91.1	79.0	71.3
期末試験対策	16	80.7	84.2	71.0	66.0

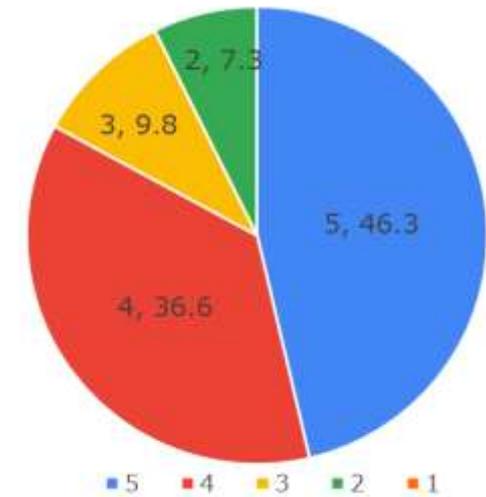
4. 数学基礎力(自習課題)学習前後の比較



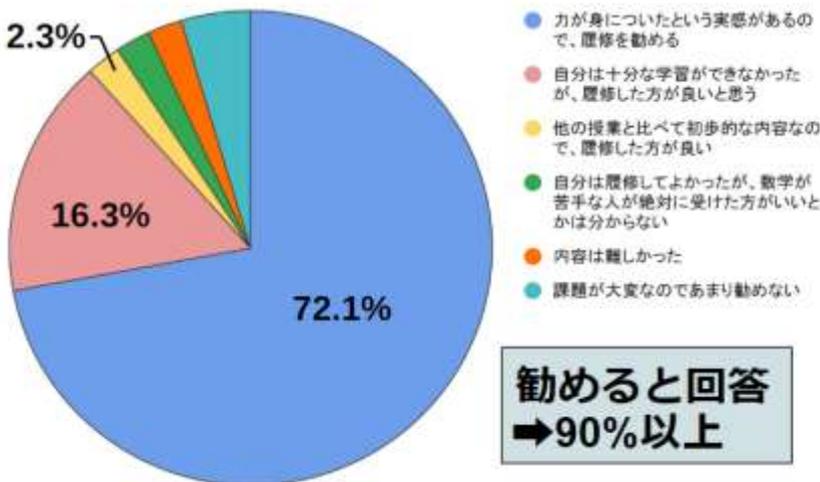
5. 授業外学習の成果報告（プロジェクト発表会の資料より）



問 この授業は課題が多くて大変だったと思いますが、自分の努力を5段階で自己評価してください。



数学が苦手な人に受講を勧めるか



MSLCの感想

分からないと言いやすい環境である

否定せずに丁寧に教えてくれる



6. アンケートの結果

(1) 授業にSA がいて良かったことは何ですか？

- ・巡回してくれるので、簡単に質問できた。
- ・先生が他の学生の対応中でも質問できる。
- ・気軽に分からないところが聞けるから良い
- ・「大丈夫？」と分かっているかすぐ確認しに来てくれるので心強いです。
- ・困っていると優しく教えてくれる

(※一部抜粋)

(2) MSLC でやって欲しい講座やイベントがあれば教えてください。

- ・テスト前の講座は続けて欲しいです。
- ・いつもテスト対策講座で助かってます

- ・テスト対策講座の続行
 - ・引き続きテスト対策の講座があったらいいと思います
- (※一部抜粋)

(3) MSLC があってよかったと思うことはなんですか。教えてください。

- ・わからないところを一对一で習えるところ。
- ・分かるまで徹底的に教えてくれるところ。
- ・授業では理解が追いつかないんですけど、MSLC に行ったら対面でやってもらえるとうごく分かりやすいし質問もしやすく、ほんとにあって良かったなと思います。多分なかったら単位落としてます。
- ・自分の苦手な部分をチュータリングによって補うことができるのでよかったと思います。チューターの皆さん本当に感謝してます。
- ・授業の内容を復習することで知識が定着する。授業内で分からなかったところを無くせる。

(※一部抜粋)

(4) 考察

今期は前の学期と比べて受講生が6倍近くいて大変でしたが、1つのテストに対して講座を2回に増やしたり、他の担当科目のチューターに協力してもらったりといった対応で乗り切ることができました。

アンケート結果から、講座には受講生の1/3が参加してくれたことが分かります。講座を行った体感として、毎回の講座に参加してくれている学生が多い印象でした。アンケートより、講座を続けて欲しいという声も多かったので来期以降も講座に尽力すべきだと考えます。また、空きコマアンケートを行ったことも多くの学生が講座に参加してくれる要因に繋がったと考えます。

SAには森田さんが入ってくれて、受講生からのアンケート結果も良く頑張ってくれていた印象でした。

そして、計算力や計画力、質問力といった力も例年通り受講後には全ての力への自己評価が高くなっており、MSLCの活動の成果が伺えました。

(5) 反省点及び改善点

受講生が増えたことにより講座の数が増加していることや再試験者数の増加等を考慮し、担当科目を3人から4人に増やすことで業務量の分散や円滑化を図るべきだと考えます。

また、第3回基礎力試験は分野が3つあり、平均算・流水算・速度算とどれも苦手と感じる学生が多い分野だったので全体的に点数が低い傾向にありました。来期は難易度が高いと感じるテストの対策プリントは、優しい問題を設定したり問題数を減らしたりして、TRや講座の負担を減らすべきだと感じました。それにより、チューターも基本をより深く理解することができ、テストで応用問題や難しい問題が来ても対処する力がつくと考えます。

テスト対策に関して、テスト前はTRが多くチューターが大変そうだったので、より多くの学生が講座に参加してくれると良いと思いました。1つのテストに対し2回の講座で30人が参加できる計算でしたが、多くて22人でした。リピート率は高かったのですが毎回同じような顔ぶれだったので、来期はTRの際に講座参加を促す声かけや「気軽に講座に参加できる」点をアピールして、より多くの人が一歩でも講座に足を運んでくれるきっかけが作れると良いと考えます。

■ 数学連携授業まとめ

担当チューター：川鍋匠生（科目担当リーダー） 清水麻由、繁永怜美、田浦和珠

1. 目的

- ・MSLC 利用者の数理能力の向上と学習サイクルの定着
- ・数学受講者の学習支援
- ・ピア・チュータリングによる双方向の成長
- ・学習の重要性を共有

2. 課題提出状況

課題回数 41 回 平均提出

課題回数	期限内提出率	期限後提出率	合計提出率
41 回	77.5%	15.1%	92.6%

3. 授業外学習の効果測定 履修前後の正答率比較



4. 良かった点

- ・第1回・第2回は提出率が100%であり、その後も減ってはいるものの高い提出率を維持することができた。
- ・学習前後の正答率比率もどの単元においても学習後の方が高いという結果が得られた。
- ➡学生の学習意欲と私たちの学習支援がうまく組み合わさった結果だと考える。講座のアンケート等からも、私たちの支援に良い評価をいただいているため、それが学生の学習意欲の維持、向上に繋がりがこのような結果に繋がったのだと考える。
- ・毎講座2~3人の参加者がおり、またTRを受ける人も受講生も半分ほどいたこと。
- ➡対策プリントを作成することや講座を開講することに意義があるということが感じられた。今後も継続して講座や対策プリントでの支援をしていきたい。

5. 反省点及び改善点

・講座参加者が少なかった点

→空きコマアンケートの結果をもとに日程を決めたが、1限だったためなかなか人が集まらなかったと考える。そのため来期は開講する日程決めを工夫したい。またポスターや Instagram、クラスルームだけでなく TR に来た際の声かけも徹底したい。

・講座の準備に取りかかるのが遅かったり、ミスが多くあったりしたこと

→ポスター作成などは早かったものの、Instagram やクラスルームへの告知を忘れてしまったり、対策プリントの解答作成がギリギリになってしまい、さらに解答に不備が多く見受けられたりとミスや不備が多く見られた。そのため来期は早め早めに行動すること、確認を怠らないことを徹底し、ミスを減らし余裕を持って活動を行っていきたい。

■ 統計学授業連携まとめ

担当チューター：山内貴裕（科目リーダー）、佐事奏実 佐藤大虎

1 目的

- ・MSLC 利用者の数理能力の向上と学習サイクルの定着
- ・ピア・チュータリングによる双方向の成長
- ・学習の重要性を説く
- ・統計学受講者が、統計的思考方を身につけ、活用できるようになる

2 連携方法

- ・課題提出はオンラインと対面の両方で対応した。
- ・中間試験対策と期末試験対策、単元（T 分布・信頼区間）の講座を開講をした。

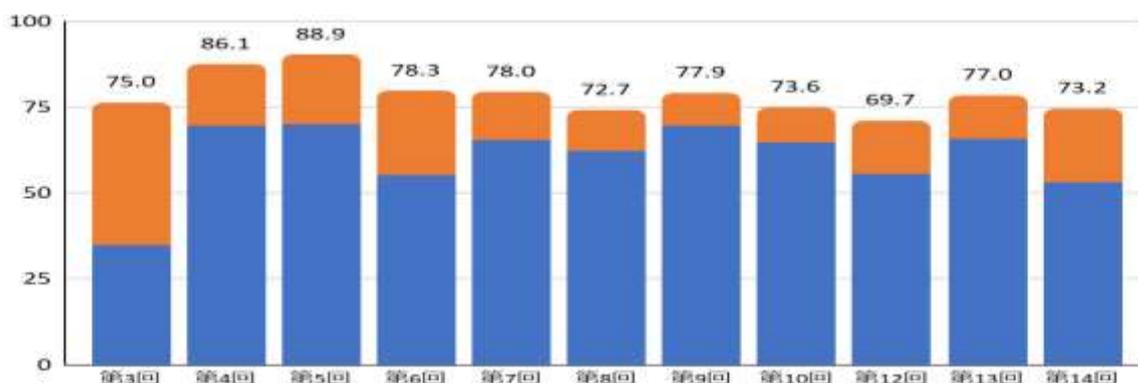
3 課題内容

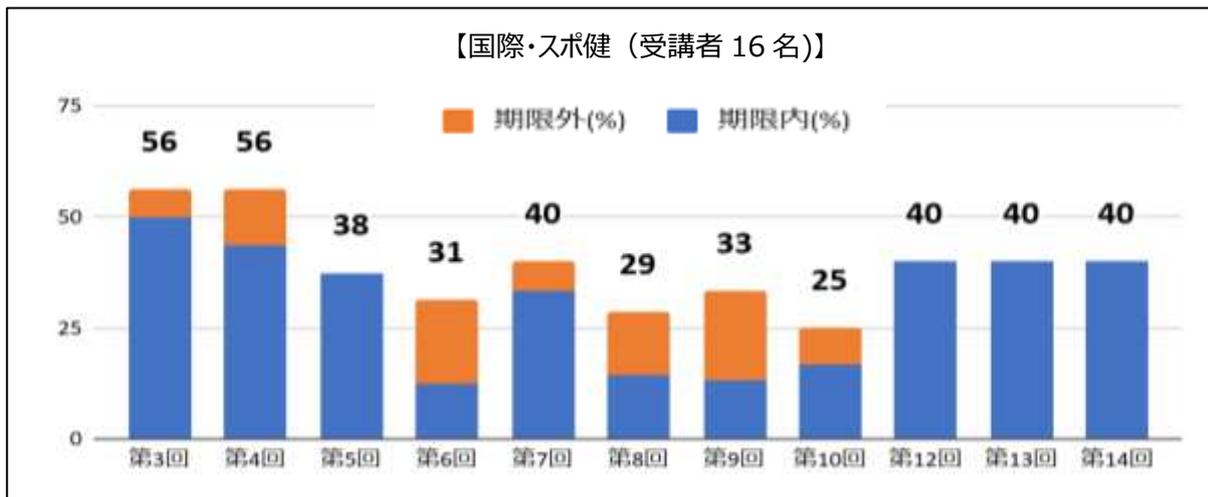
第 3 回	用語理解	第 9 回	母平均の区間推定 t 分布による区間推定
第 4 回	分散、標準偏差		レポート課題（エクセルの活用）
第 5 回	標準化、エクセルの活用	第 10 回	t 分布による区間推定
第 6 回	正規分布	第 12 回	Z 検定・T 検定・母比率の区間推定
第 7 回	標準正規分布・一般正規分布の特徴	第 13 回	母比率の区間推定・カイ二乗分布表
第 8 回	95%信頼区間母集団と標本	第 14 回	カイ二乗検定

4 結果

（1）課題提出状況

【看護学科（受講者 87 名）】





5 考察

- ・今期は課題をオンライン提出もしくは MSLC での対面での提出の 2 つを行い、ほとんどの学生がオンライン提出を行ったため平均利用回数は少ないと考える。
- ・授業にあまりついていけない学生が対面の TR に来ることが多いが、それでもわからないままオンライン提出をしている学生も多く見受けられた。
- ・t 分布と区間推定の単元講座は、受講者が 1 名と少なく、統計学受講者にとっては内容理解は後回しになってしまっていると考えられる。

6 反省点及び改善点

- ・期末直前でも内容理解ができていない学生が多く見受けられた。オンライン提出は必要だと考えるが、統計学が難しい学生を対面 TR に来られるような仕組み作りが必要である
- ・単元講座は統計学受講者にとって重要度が低いいため、それでも区間推定の範囲までは授業内でついていけるような取組が必要である
- ・オンライン提出の返信が遅かったため、MSLC 間で解答ができるように周知や的確なマニュアル作成が求められる

■ 情報科目連携授業まとめ（情報処理論）

担当チューター：山田翔大、具志堅百奏、（休学:谷本淳晟）

1 目的

- ① 自主学習の重要性を説く
- ② 情報科目の学習支援のサポート

2 連携方法

講座	日時・場所
情報処理論中間試験対策講座	2024/06/12(4 限) サクラウム 4 階 研修室 A
情報処理論中間試験対策講座	2024/06/13(5 限) サクラウム 4 階 研修室 A
情報処理論期末試験対策講座	2024/07/31(4 限) サクラウム 4 階 研修室 A
情報処理論期末試験対策講座	2024/08/01(5 限) サクラウム 4 階 研修室 A

3 課題内容

シラバスに基づいた復習課題の配布（9 回）

4 結果

利用状況（履修者:62名）

	中間試験対策講座	期末試験対策講座	期末試験（30点満点） 講座受講者の平均点 25.5点 講座不受講者 " 21.3点 ◎ 講座受講者の平均点が、不受講者の平均点を上回った。
受講者数	10名(TR:2名)	14名	
延べ利用者数	12名	14名	
実利用者数	12名	14名	
利用者率	19.35%	22.58%	

5 考察

- ①講座後のアンケートを集計したが、「講座がテストにどのような影響があったのか/なかったのか」を把握できず、講座の充実度を上げられなかった。
- ②講座受講者数が少ないため、より来てもらえるような工夫を行うべきだと感じた。

6 反省点及び改善点

- ①試験後に受講者に対してアンケートを行う。効果があったか、改めて感想を集計する。
→来期のプロジェクト発表会で、2024前期の期末試験対策講座の報告をする。

■ 情報科目連携授業まとめ（情報科学と社会）

1 目的

- ①数理的能力の向上、学習習慣の定着
- ②スポーツ健康学科の学生に対する数理的な能力不足の解消
- ③計算機科学についての学習

2 課題内容

進数の範囲（2進数↔10進数、8進数・16進数）の復習課題、応用課題

3 考察

必須課題の提出率は高かったが、応用課題の提出率は低かった。受講者の自主学習の促進を促すことができなかったと考えられる。

また、補助教材を作成・共有したことで課題を解くことができた受講者もいたことから、来期も継続する。

4 反省点及び改善点

- ・連携内容を受講者に対してアンケートを行ったところ、分かりやすい／分かりにくい意見が出ていたため、実際にTRに来てもらえるような工夫を行う。
- ・学期の途中から連携をおこなったこともあり、チーム内での連携がとれていなかったため、来期以降は連携がとれるように声かけを行う。

■ 診療連携授業まとめ

担当チューター：塩谷玲空（担当リーダー） 桃原歩夢 新里佳祐

1. 目的

・診療科目

（臨床医学総論及び医療用語）の学習支援のサポート

・学習習慣の定着

2. 連携方法

- ・毎授業復習課題の提供（臨床医学総論及び医療用語）

3. 取り組み内容

- ・課題提出方法：

teamsにてGoogleforms形式と暗記メーカーで配布（臨床医学総論及び医療用語）

4. 課題内容

- ・毎期提示されているシラバスに沿った授業内容の復習

（臨床医学総論及び医療用語）

5. 結果 平均提出率

- ・臨床医学総論及び医療用語（全13回）：97.8%

6. 良かった点

2023年度後期に開講された医療概論及び人体構造・機能よりも、今期開講された臨床医学総論及び医療用語の提出率が大幅に向上したことが挙げられる。その理由とプロジェクト発表会にあたって学生にアンケートを実施した。アンケート結果から分析を行い、理由として5つ考えられた。

- ・1つめは、医療概論及び人体構造・機能は必修であったが、臨床医学総論及び医療用語は選択科目であったため、より興味関心の高い人が受講しているということが考えられる。
- ・2つめは、締め切りを一区切りしたことである。医療概論及び人体構造・機能では、期末試験まで提出扱いとしていたためギリギリに提出する学生が多く、意欲や意識が低下していたことが考えられる。そこで、臨床医学総論及び医療用語では、中間試験までに中間試験までの内容の課題を締め切ることにした。そのため、学生の学習習慣の定着を促すことにつながり、診療チューターとしても課題点検への負担が軽減された。
- ・3つめは、診療チューターの手厚いサポートが挙げられる。具体的に、新しく暗記メーカーで課題に取り組んだため、課題提出までの流れを画面録画し、teamsに投稿したこと、また暗記メーカーの課題提出までの流れを授業内で説明し、実際に課題提出をさせたこと、課題を提出していない学生にteamsのチャットで課題の提出を促進させたこと（やり方が分からない場合は気軽にご連絡ください等）、teamsにて課題提出促進に関するアナウンスを行った。これらの行動が、提出率向上につながったと考察する。
- ・4つめは、学生の講義への意識の変化が挙げられる。アンケートにおいて「内容を隈なく網羅したい、診療資格の要所をおさえたい、単位がもらえたらいい」の3つの選択肢を与えた。一番低い評価である「単位がもらえたらいい」と回答した人が、2023年度後期の医療概論及び人体構造・機能では7人が回答したが、2024年前期の臨床医学総論及び医療用語では0人であった。このことから、学生の講義への良い意味での意識の変化があったと考察できる。
- ・5つめは、課題の内容が教科書から出題されていたので解きやすかった点が挙げられる。医療概論及び人体構造・機能では、テキストと課題内容が合っていなかったため、途中でやめてしまう人が多かった。しかし、今回は、テキストと課題内容が合っている内容であることから教科書を参照すれば簡単に問題を解けるため、途中で離脱することなく最後まで終わることができたと考察する。

7. 反省点及び改善点

【反省点：改善点】

臨床医学総論及び医療用語

〈臨床医学総論（Googleform）〉

- ・いちいちログインするのがだるい

〈医療用語〉

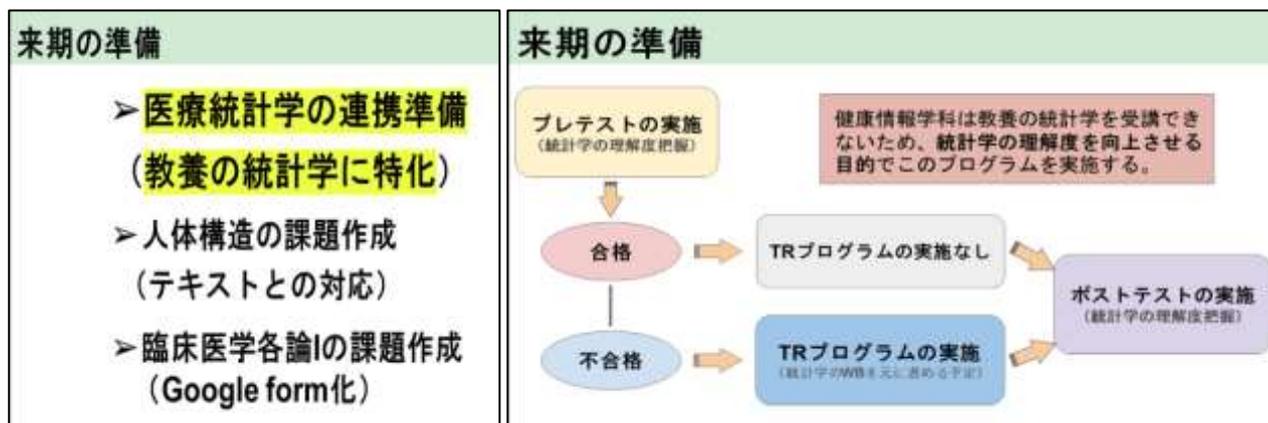
- ・操作がめんどくさい
- ・共有するごとに広告が流れてくるため

という声があった。

課題を行うにあたって作業はつきものなので、これら意見に関する支援まで行う必要はないと考える。

健康情報学科の来期の計画について

(1) 医療統計学の連携の準備



8. 振り返り

前の学期の反省点である、提出率の向上が達成できた。医療統計学に関しては、教養の統計学の内容を1から支援するという前例のないことにチャレンジするために、早い時期から準備をしてきた。診療担当のチューターだけでなく、統計学担当のチューターにも手伝ってもらいながらテストやワークブックを作成した。異なる科目間で連携をとることも初めてで、上手く連携ができるか不安ではあったが、情報共有を密に行ったことで、医療統計学の準備を無事終えることができた。今期は、全体を通して良かったと感じた。それは、多くのチューターから様々な視点からの意見を聞いたこと、また、その都度改善してきたことがこの結果につながったと感じる。

■ 健康情報数学連携まとめ

担当チューター：鷲津心花、新里佳祐、外間涼花、外間袴大（休学:谷本淳晟）

1 目的

- ①健康情報数学 I の理解・能力向上
- ②学習サイクルの確立

2 連携方法

- ・授業の SA
- ・チュータリング

3 主な内容

- ・課題（13回分）の個別学習支援
- ・中間試験対策
- ・中間試験再試験者対策
- ・健康情報学科の連携についての話し合い
- ・MSLC の関心と今後の連携において参考にするためのアンケート調査

4 結果

- ・中間試験対策では、35名の学生が参加
- ・再試験対象者23名のうち17名が受験資格を得て、11名が合格した
- ・再試験最高点が88点で、最高伸び点が76点、平均伸び点は34点

- ・MSLC でのチューティングを受けた生徒は、半分以下であった
- ・リメディアル講座に参加した生徒は、半分以上いた
- ・多くの学生が、家でやるよりも集中できた、理解しやすかった
- ・焦らずできる環境でよかった

5 考察

- ・学習サイクルがつくれている
 - ➔学習サイクルの確立に役立っている
- ・学生間での学び合いが得られた
 - ➔内容の理解、能力向上の場を設けられていて、サポートできる体制が整えられた
- ・健康情報数学に対応できるチューターの数が不足している
 - ➔対応可能なチューターの育成・募集の必要性を感じた

6 振り返り

今期に始めて開設され、決まっていないことも多くあり、試行錯誤しながらおこないました。毎週金曜日の 2 限目の時間に太田先生を交えて連携内容を相互に確認し合いました。内容としては、勉強会のサポートに入るチューターを決める、毎週水曜日の 4 限のリメディアル講座のサポートについて話し合いました。また、水山先生を交えて、来期連携予定の健康情報統計 I の連携について話し合い、MSLC 連携課題を出すという形になりました。まだまだ、試行錯誤しながらの連携になるため来期も担当の先生方と情報共有しながら学習のサポートを行っていきたい。

■ 数理・データサイエンス・AI 入門との連携

担当チューター：外間涼花・具志堅百奏・清水麻由

1. 目的

- ・グラフを読むことで理解を深められること（立津先生のクラスルームの文言より引用）
- ・数字に対する抵抗感が下がること（立津先生のクラスルームの文言より引用）

2. 連携方法

- ・5/8,5/22➔数理・データサイエンス・AI 入門におけるチューティング、連携における勉強会
- ・6/26 の 3 限、7/3 の 3 限の講座のみ
- ・TR での対応はなし

3. 取り組み内容

- ・数理・データサイエンス・AI 入門の連携における勉強会
- ・授業課題である、人口推移、医療データの分野についての数理・データサイエンス・AI 入門分析課題講座の開講

4. 結果

質問	回答
Q. 受講前の理解度	理解度 1～5 (1 : 4 名、2 : 4 名、3 : 1 名、4 : 1 名、5 : 4 名)
Q. 受講後の理解度	理解度 1～5 (4 : 2 名、5 : 12 名)
Q. チューターの解説	難しい、分かりづらい : 0 名 普通 : 1 名 分かりやすかった : 13 名
Q. また講座に参加したいか	Yes : 14 名 No : 0 名

5. 感想

- ・統計がこんなにも簡単に見られるとは知らなかった。グラフの扱い方を知れた。
- ・グラフの扱いがわからなかったのでとても助かりました。丁寧に教えてくれてありがとうございました
- ・優しく教えてくれました！途中とても眠くて、少し寝てしまっておめんなさい💦
- ・問題の意味も教えてもらって、問題を解くこつも教えてもらってとても良かったです！
- ・具志堅さんに教えてもらって理解できました。
- ・とてもわかりやすく教えてくれた
- ・質問をしたらしっかり教えてくれて嬉しかった
- ・優しく教えてくれたので分かりやすく、質問しやすかった。
- ・参加するまで何も分からずじまだったので、今回、チューターさんに優しく教えていただいたので良かったです。
- ・自分が見る場所を間違えていたり、計算間違いをしていたりしていた時に教えていただいてよかったです。
- ・よく理解できました。課題を解くのが楽しかったです。
- ・説明も分かりやすかったし、分からないところも質問しやすかったです！
- ・わからないところを丁寧に教えてくれたので受けてよかった。
- ・とてもわかりやすかったです。それに聞きやすい雰囲気でも気軽に聞くことができました。

6. 反省点及び改善点

- ・数理・データサイエンス・AI 入門分析課題対策講座について行ったが、初めて行う講座であった事やチューター自身も手探りだったこと、対応できるチューターが少なかったことが反省点として挙げられる。(プロジェクト発表会より)
- ・継続して講座を開講するべきかは検討していく必要があると感じた。(プロジェクト発表会より)
- ・講座アンケートの項目にある「また講座に参加したいか」という質問に対して、講座に参加した 14 名全員が「Yes」という意見だったことや、また「説明が分かりやすい」や「質問をしやすかった」という感想があったことも踏まえて今後について考えていくべきだと感じる。
- ・もし、今後も継続するのであれば、チューターの数理・データサイエンス・AI 入門に対する能力の向上のために、定期的に先生を交えた勉強会を行うなど何かを取り入れるか、健康情報数学のように専門チューターをおいて、そのチューターが対応していくかは話し合いを行う必要がある。



<数理・データサイエンス・AI 分析課題に関する講座> 受講者のコメント

- ・統計がこんなにも簡単に見られるとは知らなかった。グラフの扱い方を知れた。
- ・グラフの扱いがわからなかったのでとても助かりました。丁寧に教えてくれてありがとうございました。
- ・問題の意味も教えてもらって、問題を解くこつも教えてもらってとても良かったです！
- ・質問をしたらしっかり教えてくれて嬉しかった
- ・優しく教えてくれたので分かりやすく、質問しやすかった。
- ・参加するまで何も分からずじまだったので、今回、チューターさんに優しく教えていただいたので良かったです。よく理解できました。課題を解くのが楽しかったです。
- ・自分が見る場所を間違えていたり、計算間違いをしていたりしていた時に教えていただいてよかったです。

運営班の報告

■ 広報学期末報告書

担当チューター 赤嶺 妃美紀、外間 涼花、新里 佳祐、鷺津 心花、
森田 春香（リーダー）、佐藤 大虎、新城 碧唯、繁永 怜美

1.目的

広報活動・情報発信を行い、MSLC の存在や活動内容について知ってもらう

2.活動内容

- ・MSLC の PR 動画作成
- ・Instagramでの自己紹介投稿
- ・チューター名札、入口のチューター紹介作成
- ・月刊 MSLC の作成
- ・名桜広報作成
- ・定期トレーニングの写真、動画撮影
- ・Instagram運営（ストーリー、投稿）
- ・ホームページ運営
- ・パーティー作成
- ・ポスター作成

3.総括

今期は、Instagramでの情報発信や広報活動に力を入れた。その結果、当初 100 名程度だったフォロワーが 200 名以上まで増加した。また、フォロワー以外でもストーリーや投稿に目を通してきている人もいて、広報の目的である「広報活動、情報発信を行い、MSLC の存在や活動内容について知ってもらう」を達成することができたと感じている。今期は、毎日ストーリーをあげるということを目指し、毎日担当者を決めて取り組んだ。しかし、忘れてしまう日や、内容が似たようなものになりマンネリ化するなどの課題が上がった。予約状況や開講予定の講座の宣伝という内容に偏りがちであったので、これらの情報はもちろん、より MSLC の内部に潜入するような情報を載せ、MSLC の活動の楽しさや、チューターが楽しく活動している様子なども発信できたらなお良かったと思う。来期の課題にしたい。Instagramの運営について課題はあるものの、大きな成果も残すことができた。Instagramは学生が情報を得やすい方法の一つであると考えるので、来期も引き続きInstagramを活用した広報活動を進めていきたい。チューターリング予約フォームからではカレンダーが見づらく、予約の状況を把握しにくいという声が上がったので、毎日の予約の状況をInstagramのストーリーで伝える様にするのもよいと考えた。テンプレートを作ったら、そこに少し編集を加えるだけでストーリーを作成できるので、取り組んでみたい。

広報チューターの仕事の一つである、写真撮影が乏しかったと考える。定期トレーニング の写真が少なかったり、撮り忘れがあったりということがあったので、広報メンバー全員で写真撮影を行うという意識をもつ必要がある。また、「月刊 MSLC」が「月間 MSLC」になっていることがあったので発行する前にきちんと確認をする必要がある。また、先生に確認のメッセージを送る前に、広報リーダーに確認を取ることがきちんと行われていなかった。多くの人で確認した方がミスに気がつきやすくなるので、リーダーと先生に確認してもらうことを徹底する。

4.作成した掲示物一覧 【月刊MSLC4月号～7月号】



【広報のパーティー】



【Instagram運営】



【Instagram ストーリー】



【Instagram運営】



- ・MSLC のイベントなどについて周知
- ・講座の日程の周知
- ・チュータリングの空き状況の周知
- ・講座の様子や励ましのメッセージ
- ・講座の開講のお知らせ
- ・コラム



■ 利用者統計報告書

1.目的

MSLC 利用者状況の把握

2.活動内容

- ・月別利用者統計
- ・プロジェクト発表会における報告（パワーポイントの作成と発表）
- ・2024 年度前期利用者統計のまとめ

3.使用データ

- ・2024 年度前期の入退室データ

4.集計方法

- ・TR 時間、学年・学科別利用者数については、管理 MSLC の Stay time data から集計を行い、スプレッドシートを用いて統計を行った。

5.2024 年度前期集計まとめ（4/10～8/5 まで）

- ※ 3～8 頁に掲載している内容は省略

□曜日・時限別利用者延べ人数

	月	火	水	木	金	合計
1限	53	74	10	6	47	190
2限	73	138	135	29	32	407
3限	49	127	97	36	38	347
4限	32	128	51	69	64	344
5限	53	89	60	28	40	270
合計	260	556	353	168	221	1,558

□利用目的別利用者延べ人数

解答・TR	1298
講座	222
その他	38
合計	1558

6. 来期に向けて

- ・例年の前期体制と比べて、チューターの人数は多いが、受講者の人数が増えたため、各チューターのチューティング時間が大幅に増えたと考える。またシフトの都合上、チューター同士を比較するとチューティング時間に約 20 時間という大きな差がでている。今期もシフトの入れ替わりを行ったが、シフトの変更が可能なチューターが少なくチューティング時間に偏りがでたのではないかと考える。
- ・今期は特に統計学基礎の受講生が約 60 人と多いため延べ人数が大幅に増加している。また統計学では後半期間にチューティングを受ける看護学科の受講生の人数が増加した。
- ・注目したい点は「健康情報数学 1」の科目受講生が中間試験後増加したことである。しかしながら、対応できるチューターの育成が進んでいなかったため、曜日の偏りが生じたり、期末試験付近では 1 時間 30 分以上という長時間のチューティングを行わなければならない状況があり、一部のチューターに負担が生じてしまう構造ができていたため、来期から改善するべきだと考える。

■ 新規チューター育成報告書

1. 担当チューター 清水麻由、山田翔大、山内貴裕 (リーダー)、川鍋匠生

2. 目的

- ・実際のチューティングに向けたスキル向上
- ・履修できない科目への対応

3. 活動内容

- ・勉強会内容・日程決め
- ・勉強会実施
- ・勉強会報告作成
- ・アンケート作成(継続チューターTR 評価、新規チューター評価)
- ・プロジェクト発表会スライド作成

4. 勉強会内容

[勉強会日程 2024 年度前期](#)

[勉強会報告 2024 年度前期](#)

今期は新規チューター 5 名のうち 4 名が統計学を未履修だったこともあり、前半は TR ロールプレイを中心に、後半は統計学の内容を重点的に学ぶような日程を組んだ。新規チューターからは履修していない部分を学習することができてとても良かったとプラスな評価をいただくことができた。

5. 今期の成果

- ・今期は新規チューター5名のうち4名が統計学を未履修だったこともあり、統計学の内容を重点的に学ぶことができた。
→目的である履修していない科目への対応が達成できたと感じる。
- ・今期は新たに継続チューターからの評価や高安先生からの評価など新規チューターの成長度を定期的に測ることができた。
→他人からの評価をもとに新規チューター自身、自分の成長を感じることができたと考える。
- ・勉強会の初めの方で TR ロールプレイを多くやったことで、TR に向けた実践的なトレーニングができ、初めの TR で良いスタートダッシュが切れたのではないかと感じる。

6. 反省点と来期に向けて

- ・勉強会後半は学ぶことが多くあまり TR ロールプレイができず、TR スキル向上に向けた取り組みが少ししかできなかった。
→新規チューターの様子を定期的に観察し、柔軟に対応していけたら良いと考える。
- ・今期はリーダーが仕事を負担することが多かったように感じたので、来期からはもっと仕事を分散できるような仕組みづくりをし、仕事を分散して行っていきたい。
- ・プロジェクト発表会の新規チューター育成の報告にもあったように自分の TR を見てもらうだけでなく、継続チューターの TR を見る機会を設けるのはとても良いと感じたので、来期に活かしていきたい。

◆ MSLC 活動報告のまとめ 担当：リーダー

1. 定期トレーニング [2024MSLC 定期トレーニング](#)

今期は、TR に特化したプレゼンテーションを多く行った。プレゼンテーションの中では、現状の問題点、そこから提案した内容をその場で実践する時間を設けたり、意見交換をする時間を多くとったりした。
TR ロールプレイにおいては、より実際の TR を意識するため、1対1形式を多く採用した。

2. 今期の新しい取り組み

① ホワイトボードを活用してみんなの困りごとや分からないことの共有

分からなかったところや TR してみて、いまいち TR が分からなかったところをホワイトボードに書き込んでいった。最初は時間があり、書き込む人が多かったが中間になると忙しく書き込むのが皆無に近かった。後期は活用できるように積極的に声かけや、コミュニケーションを取るのが重要だと考える

② 新規チューター勉強会にて先生や先輩からの評価をもらう機会を設けた

数的能力・TR スキルの向上に繋がっただけでなく、コミュニケーションの場としても良い時間であった。また先生からの立場は TR する側だけでなく、生徒役のチューターも勉強になった。

来期以降も継続していきたい。教える側の理解度不足という課題も見つかったので、継続チューターのスキルも向上させる必要がある。

③ 数理・データサイエンス・AI 入門の講座開講 [数理・データサイエンス・AI 入門講座報告書.docx](#)

立津先生の指導をもとに二つの提出課題の講座開講を行った。課題に関して現代の問題を数字で見ることができ、自分たちが教えるにあたって、とてもためになるものだと感じた。右も左もわからない状態から始めたが、成功に終わったと考える。また、受講人数が多く、データの読み取りも時間が必要なため、講座開講が1番適していると考えている。

改善点として、最終的に全員が教えられるようにしようとしていたが、達成できず、特定の人に負担がかかったことである。次回以降、連携する場合、事前研修会で取り扱い、知識やどう教えたらいいのかの共有が必要だと考える。

3. 良かった点

- ・新規チューターの評価を行えたこと
- ・プレゼンテーションを TR に絞ってより深掘りできたこと
- ・科目の運営を2年次を中心に行うことができたこと
- ・多い人数（19人）で内分裂することなく進めることができたこと

4. 改善点と来期に向けて

- ・全体的にモチベーションや責任感に差があった。
 - ➡自分にできることや組織全体に必要なことを考え、行動できない時間には、ロールプレイを行う。
また、半期間の目標を立て、月一で方向性をみんなで確認する。
- ・プレゼンテーションにおいてなぜこれをお題にしたのかの意思疎通ができていなかった。
 - ➡全体に向けての説明。個人に対しても説明をする。
- ・忙しさに伴う、コミュニケーション不足
 - ➡定期トレーニングの時に意識してしゃべりかける。事前研修会や勉強会で話す。

【後期の予定】 2024 年後期 事前研修会・MSLC 勉強会

1. 2024 年度後期 MSLC 事前研修会

日 時：2024 年 9 月 24 日(火) 9：30～16：00

場 所：SAKURAUM 4 階 MSLC 前 アクティブラーニングスペース

参加者：2024 年度後期 MSLC チューター

2. 2024 年度後期 MSLC 勉強会

日 時：2024 年 9 月 30 日(月) 6 限

10 月 7 日 (月) 6 限

場 所：SAKURAUM 3 階 大講義室 B

参加者：2024 年度後期 MSLC チューター